

インフルエンザの流行について

気温の低下と空気の乾燥が進むにつれて、インフルエンザの流行する季節がやってきました。昨シーズンは新型コロナウイルス感染症との同時流行が危惧されましたが、新型コロナ対策でマスクの着用や手洗いなどが徹底されたこともあってか、インフルエンザの感染者数が激減し、厚生労働省による現行の調査が始まった1999年以来初めて「流行なし」と発表されました。

しかし、今シーズンはインフルエンザ流行の季節を前にして新型コロナウイルスに感染する患者が減少傾向にあり、緊急事態宣言の解除など市民の危機意識が低下することで、マスクの着用や手洗いなどの感染対策がおろそかになってしまう懸念があります。

また、日本感染症学会がまとめた今期の「インフルエンザワクチン接種に関する考え方」によると、昨シーズンは国内でのインフルエンザ患者が極めて少なかったため、インフルエンザに対する社会全体の集団免疫が形成されていないと考えられ、海外からウイルスが持ち込まれれば大きな流行が起きる可能性があるという注意を促しています。

国内で使用されているインフルエンザワクチンは、絶対にかからないというものではないものの、発病を予防することや、重症化や死亡を予防することに一定の効果があるとされており、日本感染症学会では、今期もインフルエンザワクチンの積極的な接種を呼びかけています。

接種時期については、インフルエンザの流行シーズンやワクチンの効果が発揮されるタイミングなどを考えると、10月末までに接種することが理想的とされていますが、今シーズンは新型コロナワクチンとの接種間隔を2週間以上とすること。また、例年よりもインフルエンザワクチンの供給が遅れていることなどから、遅くとも12月中旬までにはインフルエンザワクチンの接種を終えていただきたいです。

新型コロナウイルスに感染する患者は、今後も多く発生することが予想されます。繰り返しますが、新型コロナウイルスやインフルエンザは、ワクチンを接種することで発症や重症化を予防することに一定の効果があるとされています。昨シーズンは発熱などの症状が似ているため、新型コロナなのかインフルエンザなのか、両方の検査をする必要があり、医療現場を混乱させました。受診を抑制することは、医療現場の負担を軽減することにも繋がります。特に小さい子供や高齢者は重症化するリスクが高いため、早めにインフルエンザワクチンの接種を受けましょう。

